

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年07月06日

計画の名称	京都岡崎地区都市再生整備計画（第2期）												
計画の期間	平成28年度 ～ 平成31年度（4年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	京都市												
計画の目標	京都・岡崎地域は、東山を望む素晴らしい都市景観の中に琵琶湖疏水をはじめ、美しい庭園群や文化財、美術館、博物館などの文化交流施設が集積した地域であり、文化・交流ゾーンとして年間500万人以上の方々が来訪している。 このように、岡崎地域の持つ素晴らしいポテンシャルの更なる活用と岡崎地域で展開されつつある関連施策の融合により、地域の活性化の指針たる「岡崎地域活性化ビジョン」を策定した。 本計画は、このビジョンを実現するための施策を行い、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」, 「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」, 「更なる賑わいの創出」を図っていくことを目標とする。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,183	A	1,183	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H27当初)		(R2末)
1	京都市美術館の入館者数			
	京都市美術館の有料入館者数と無料入館者数の合計	96万人	万人	144万人
2	京都市美術館敷地（無料ゾーン）を利用したイベント参加者数			
	京都市美術館敷地（無料ゾーン）を利用したイベント参加者数	1200人	人	2400人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
○番号1について 当初現況値（H27当初（H21～H25平均）） 96.1万人 最終目標値（R2末） 144.1万人○番号2について 当初現況値（H27当初（H26）） 1,200人 最終目標値（R2末） 2,400人												

[illegible]

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業担当課において評価を実施	リニューアルオープン1年目実績値集計後に実施
	公表の方法
	京都市ホームページにより公表
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・美術館再整備が完了し、更に地域の魅力が向上した。 ・美術館再整備により、市民等の様々な活動の場や憩いの場を創出するとともに、誰もが気軽に無料エリアで滞在できるようになったため、地域の交流が促進された。 ・外観ライトアップ照明や外灯を新たに設置し、周辺の明るさを確保するとともに、スロープ広場などで夜間イベントを実施することで、夜の賑わいが創出された。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○特記事項（今後の方針等）	
今後は、周辺の施設と連携を深め、夜の回遊性を高める取組を実施し、地域の更なる魅力向上を図る。	

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	144万人	新型コロナウイルス感染症の影響による休館などを実施したため
	最 終 実績値	53万人	
2			
	最 終 目標値	2400人	館内無料ゾーンやスロープ広場，外観ライトアップ照明などを新たに整備し，多彩なイベントを開催することが可能となったため
	最 終 実績値	8521人	

都市再生整備計画 事後評価シート

京都岡崎地区(第2期)

令和4年3月

京都府京都市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	京都岡崎地区(第2期)			面積	34ha					
交付期間	平成28年度～平成31年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	1,183百万円	国費率	0.45							
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名 高質空間形成施設,高次都市施設,既存建造物活用事業											
		提案事業	—											
		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	—											
		提案事業	—											
	新たに追加し た事業	基幹事業	—											
		提案事業	—											
	交付期間 の変更	当 初	—		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響									
		変 更	—											
	2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
指標1		京都市美術館の入館者数	万人	96.1	(H21～ 25平均)	144.1	R2		53.7	×	あり なし ●	館内無料ゾーンを整備するなど、地域交流 に寄与することができたが、新型コロナウイルス 感染症の影響による休館などを実施し たことが未達成の直接的要因である。	新型コロナウイルス感染 症の影響は、当面の間、 継続するとみられ、確定 値を計測できる用途は たっていない。入館者数 が目標値に達していない が、新たに無料ゾーンを 整備したことにより、展覧 会観覧者以外の入館者 は確実に増加しており、 外的要因がなければ目 標を達成していたことが 見込めるため、当該指標 に係るフォローアップは実 施しない。	
指標2		京都市美術館敷地(無料 ゾーン)を利用したイベント 参加者数	人	1,200	H26	2,400	R2		8,521	○	あり なし	館内無料ゾーンやスロープ広場、外観ライ トアップ照明などを新たに整備し、多彩なイ ベントを開催することが可能となったこと で、参加者数の増加となり、地域の賑わい が創出できた。	—	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況		指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の 数値指標1	—												
	その他の 数値指標2	—												
その他の 数値指標3	—													
4)定性的な効果 発現状況														
5)実施過程の評価				実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加 プロセス						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり 体制の構築						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

京都岡崎地区(第2期)(京都市京都市) 都市再生整備計画事業の成果概要

The map illustrates the urban regeneration plan for the Higashiyama Ward in Kyoto. It highlights the historical urban form maintenance priority area and the urban regeneration preparation area. Various project sites are identified, including high-density urban development and existing building utilization projects. Key landmarks and infrastructure are also shown.

凡例

[Yellow Box]	基幹事業
[Blue Box]	提案事業
[Dashed Line]	関連事業

都市再生整備計画区域
(岡崎地域活性化ビジョン対象地域のコアゾーン)

歴史的風致維持向上計画重点区域
A = 2,458ha
(歴史の市街地地区)

都市再生整備計画区域
A = 34ha
(京都岡崎地区(第2期))

高次都市施設

既存建造物活用事業

高層空間形成施設

高次都市施設

高層空間形成施設

京都市動物園

京都市美術館再整備事業

京都市立美術館

京都市立近代美術館

地下鉄東西線 東山駅

地下鉄東西線 三軒茶屋駅

地下鉄東西線 上野駅

100m 200m 500m

まちの課題の変化	・美術館再整備が完了し、更に地域の魅力が向上した。 ・美術館再整備により、市民等の様々な活動の場や憩いの場を創出するとともに、誰もが気軽に無料エリアで滞在できるようになったため、地域の交流が促進された。 ・外観ライトアップ照明や外灯を新たに設置し、周辺の明るさを確保するとともに、スロープ広場などで夜間イベントを実施することで、夜の賑わいが創出された。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・今後は、周辺の施設と連携を深め、夜の回遊性を高める取組を実施し、地域の更なる魅力向上を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		「京都市美術館の入館者数」の数値目標について、再整備前の入館者（H21～H25平均）を基準に10%の増加を目標とする。	数値目標を1.5倍の増加に上方修正。	平成28年6月に再整備基本設計が取りまとめられ、地域交流を促進するとともに、岡崎地域の文化による交流拠点としての機能強化を目指した再整備を行うことで、来訪者のさらなる増加が期待できたため。
			「京都市美術館敷地（無料ゾーン）を利用したイベント参加者数」の数値目標について、平成26年度実績を基準に1.5倍の増加を目標とする。	数値目標を2倍の増加に上方修正。	
D. その他（ ）		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設	スロープ広場, 疏水広場, 屋上庭園	200	スロープ広場, 疏水広場, 屋上庭園	704.1	スロープ広場, 疏水広場, 屋上庭園	当初見込額を設計額に変更したことによる増額。	影響なし	●	
高次都市施設	多目的スペース(新館 講演室, ギャラリー, 多目的スペース, 情報コーナー)	400	新棟	454.4	新館 講演室, ギャラリー, 多目的スペース, 情報コーナー	新たな美術館の運営方法に係る検討を行い, 事業内容を精査したことによる変更。	影響なし	●	
既存建造物活用事業	多目的室(本館 2階西広間)	400	本館 大展示室	24.4	本館 2階西広間	新たな美術館の運営方法に係る検討を行い, 事業内容を精査したことによる変更。	影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
京都市美術館再整備事業		展示室など	10,000	11,135.2	平成28年12月～令和元年6月	平成29年3月24日～令和元年10月31日	令和元年にすでに竣工し、スロープ広場(高質空間形成施設)や多目的スペース(高次都市施設)などと一体的に活用されて、地域交流の拠点となっている。	
京都市美術館屋外彫刻作品再展示業務		疏水広場	27.962	27.9	平成31年4月1日～令和元年8月30日	平成31年4月1日～令和元年8月30日	令和元年にすでに再展示し、スロープ広場や疏水広場(高質空間形成施設)のモニュメントとして、賑わいの一端を担っている。	

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	京都市美術館の入館者数	万人	入口に設置しているピープルカウンタで計測し、令和2年度の数値を評価値とする。			96.1	(H21～25平均)	144.1	R2	モニタリング	—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定見込み	●	53.7	事後評価	×	
指標2	京都市美術館敷地(無料ゾーン)を利用したイベント参加者数	人	令和2年度中に実施したイベントの参加者を集計し、その数値を評価値とする。			1,200	H26	2,400	R2	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
										事後評価	確定見込み	●	8,521	事後評価	○	
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	新型コロナウイルス感染症の影響により、開館延期(R2.5.26開館)や入館制限(京都府民のみ)、入館人数制限などを実施する必要がある、また、観光客が大幅に減少したため、目標数値には至らなかった。新型コロナウイルス感染症の収束時期が不明であるため、1年以内の数値目標の達成見込みは困難である。	
指標2	新たに整備を行ったスロープ広場や外観ライトアップ機器等を活用し、コンサートやライトアップイベントなどを開催した結果、想定以上の来訪者があった。	
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
	単位			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関係者会議	美術館職員	令和4年2月	文化市民局美術館総務課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標○		指標○		指標○	
指 標 名		京都市美術館敷地(無料ゾーン)を利用したイベント参加者数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	高質空間形成施設	◎	館内無料ゾーンやスロープ広場、外観ライトアップ照明などを新たに整備し、多彩なイベントを開催することが可能となったことで、参加者数の増加となり、地域の賑わいが創出できた。						
	高次都市施設	◎							
	既存建造物活用事業	○							
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も魅力的なイベントの実施又は誘致し、地域の賑わいを創出する。			
-------	----------------------------------	--	--	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標Ⅰ			指標○			指標○			指標○		
指 標 名		京都市美術館の入館者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	高質空間形成施設	△	館内無料ゾーンを整備するなど、地域交流に寄与することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響による休館などを実施したことが未達成の直接的要因である。	Ⅳ									
	高次都市施設	△											
	既存建造物活用事業	△											
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	新型コロナウイルス感染症が収束すれば入館者数の増加が見込めるが、万全の感染対策を実施して開館していることなどを含めたPR広報を実施し、入館者の増加を図る。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関係者会議	美術館職員	令和4年2月	文化市民局美術館総務課

添付様式5－② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
各施設の老朽化, 機能強化 への対応が必要	美術館再整備が完了し, 更に地域の魅力が向上した。		
地域に人が憩い, 交流し, 滞 留する機能が不足	美術館再整備により, 市民等の様々な活動の場や憩い の場を創出するとともに, 誰もが気軽に無料エリアで滞 在できるようになったため, 地域の交流が促進された。		
夜の寂しさ	外観ライトアップ照明や外灯を新たに設置し, 周辺の明 るさを確保するとともに, スロープ広場などで夜間イベ ントを実施することで, 夜の賑わいが創出された。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり
方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	夜の賑わい	今回、地域の課題である夜の賑わい創出に寄与できたため、今後は、周辺の施設と連携を深め、夜の回遊性を高める取組を実施し、地域の更なる魅力向上を図る。	周辺施設と連携したイベントの開催など。

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4－②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4－③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5－②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度								予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	京都市美術館の入館者数	万人	96.1	(H21～25平均)	144.1	R2	確定	●	53.7	×	あり				新型コロナウイルス感染症の影響は、当面の間、継続するとみられ、確定値を計測できる目途はたっていない。入館者数が目標値に達していないが、新たに無料ゾーンを整備したことにより、展覧会観覧者以外の入館者は確実に増加しており、外的要因がなければ目標を達成していたことが見込めるため、当該指標に係るフォローアップは実施しない。
							見込み				なし	●			
指標2	京都市美術館敷地(無料ゾーン)を利用したイベント参加者数	人	1,200	H26	2,400	R2	確定	●	8,521	○	あり				
							見込み				なし				
指標3				H	H		確定				あり				
							見込み				なし				
指標4				H	H		確定				あり				
							見込み				なし				
指標5				H	H		確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標2				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標3				H			確定								
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		目標数値を外的要因の影響を受けにくいものとする ことで、成果の達成が明確となる。
	うまく いかなかった点	一部の指標は、外的要因の影響を大きく受ける数値目標であったため、適切な成果の達成の判断が困難であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	本市ホームページ	令和4年2月28日～3月13日	令和4年2月28日～3月13日	担当課への電子メール、郵便、FAXなど	文化市民局美術館総務課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし
-------	----

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
高田 光雄氏 (京都美術工芸大学 大学院工芸学研究科長 教授)	令和4年3月	文化市民局美術館総務課

有識者の意見	美術館の再整備は、長年にわたって親しまれてきた本館の意匠を可能な限り残すとともに、新たな動線を作り出し回遊性を高めるための工夫が随所に見られ、全体的によく考えて整備されている。 岡崎地域全体としては、エリアマネジメントの推進や、美術館、ロームシアター京都など施設等の再整備により、地域の魅力や回遊性が高まっており、新型コロナウイルス感染症が収束し、インバウンドなどの観光客が戻ってくると大きな賑わいが創出されると見込まれる。 岡崎地域には文化施設が多いという特性上、各施設の閉館時間を過ぎると人が少なくなるという課題がある。新型コロナウイルス感染症の影響があるため、夜間のイベント実施についてすぐには困難な面があると思うが、ライトアップ機能など各施設のポテンシャルは上がっているため、地域全体をコーディネートしながら夜の賑わい創出を図ることが重要である。 また、観光客だけでなく多くの市民が集い、市民と観光客双方の回遊、交流により地域の賑わいを創出できるような都市空間を形成する必要がある。各施設において市民を呼び込むための工夫を行い、地域における市民の文化活動を促進することで、賑わいはもとより京都らしい文化活動を継承、促進してほしい。 最後に、新型コロナの収束後は、夜の観光を含め、地域でより多くの人が滞在、交流し、経済効果をもたらすためにも飲食店がもっと増えるとよい。周辺の商店等との連携を更に進めるなど、岡崎地域の発展に向けて、引き続きエリアマネジメントによる取組の推進を期待する。
--------	--

都市再生整備計画

きょうとおかざき だい き
京都岡崎地区(第2期)
(第3回変更)

きょうとふ きょうとし
京都府 京都市

令和2年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォーカブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	京都府	市町村名	京都市	地区名	京都岡崎地区(第2期)	面積	34	ha
計画期間	平成28年度～平成31年度	交付期間	平成28年度～平成31年度					

目標
京都・岡崎地域は、東山を望む素晴らしい都市景観の中に琵琶湖疏水をはじめ、美しい庭園群や文化財、美術館、博物館などの文化交流施設が集積した地域であり、文化・交流ゾーンとして年間500万人以上の方々が来訪している。このように、岡崎地域の持つ素晴らしいポテンシャルの更なる活用と岡崎地域で展開されつつある関連施策の融合により、地域の活性化の指針たる『岡崎地域活性化ビジョン』を策定した。本計画は、このビジョンを実現するための施策を行い、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」、「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」、「更なる賑わいの創出」を図っていくことを目標とする。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
岡崎地域には、平安遷都1100年を記念して建設された平安神宮と、内国勧業博覧会の会場跡地に整備された文化・交流施設が集積し、京都の近代化のシンボリックな地域である。周辺には、民間の美術館・博物館、有名な寺院・神社が集積し、更に近代化を牽引したもう一つの象徴である琵琶湖疏水と疏水の水を活用した庭園群が優れた水辺の景観を醸し出している。

- 課題
- ・情報発信が弱く、「岡崎」の知名度が低い
 - ・貴重な文化遺産の継承と活用を両立させる仕組みが不十分
 - ・各施設の老朽化、機能強化への対応が必要
 - ・施設間の連携の弱さ
 - ・周辺地域からの人の流れや、公共交通によるアクセスが弱い
 - ・優れた景観の継承と文化・交流ゾーンとしての機能強化のための都市計画のルールが必要
 - ・地域に人が憩い、交流し、滞留する機能が不足
 - ・夜の寂しさ
 - ・環境モデル都市を牽引する進取の取組の必要性
 - ・来訪者を総合的に案内する環境が不十分

将来ビジョン(中長期)
①岡崎のエリアブランドを構築し、世界に向けて魅力・情報を発信
優れた地域資源や地域の取組をつなぎ、魅力を向上させることにより岡崎のエリアブランドを構築するとともに、積極的な情報発信などにより岡崎地域の知名度や集客力の向上を図る。
②山紫水明の岡崎の魅力を創出する琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用
琵琶湖疏水や庭園群については、文化的景観としての保全・修復を図りつつ、回遊や散策、MICE戦略への活用など、来訪者が岡崎の水辺の景観をじっくりと楽しめる環境づくりを進める。
③文化芸術、MICE拠点としての機能強化
岡崎ならではの多彩な文化・交流機能の集積をいかし、質の高い文化芸術が創造・発信される世界に冠たる文化・交流拠点としての機能強化とMICE拠点としての機能強化を図る。
④地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の景観・まちづくり
東山を借景とした広々とした空間を持つ岡崎地域の優れた都市景観・環境の継承と、地域の魅力を高める施設の整備等を可能とする都市計画の変更をはじめ、地域資源を結び、安心・安全で魅力的な都市空間づくりに向けたエリアデザインの検討を行う。
⑤多くの人々が訪れたい新たな賑わい創出
道路や公園、施設などのオープンスペースをつなぎ一体的に活用することで、市民、地域の人々、来訪者に親しまれる、歩いて楽しい岡崎地域にふさわしい憩いの空間と賑わいの創出を図る。
⑥環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践
環境負荷の低減や生態系への配慮、再生可能エネルギーの活用や緑豊かな環境の保全など、環境モデル都市を牽引する取組を実践し、広く発信していく。
⑦集客・国際観光拠点としての機能強化
分かりやすい観光案内を総合的にに行い、国内外からの来訪者が気軽に回遊し、岡崎地域の魅力を享受できる環境づくりを進める。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
京都市美術館の入館者数	人	有料入館者数と無料入館者数の合計	京都市美術館の入館者(H21～H25平均)を基準に1.5倍の増加を目標とする。	96.1万人	(H21～25平均)	144.1万人	R2
京都市美術館敷地(無料ゾーン)を利用したイベント参加者数	人	京都美術館敷地(無料ゾーン)を利用したイベント参加者数	平成26年度実績を基準に2倍の増加を目標とする。	1,200人	H26	2,400人	R2

計画区域の整備方針	【文化・交流拠点としての機能強化】 ・京都市美術館の再整備を通じた地域交流を促進し、岡崎地域の文化による交流拠点として機能を強化する。	方針に合致する主要な事業 ●高質空間形成施設【基幹事業】 スロープ広場・疏水広場・屋上庭園 ●高次都市施設【基幹事業】 多目的スペース(新館 講演室、ギャラリー、多目的スペース、情報コーナー) ●既存建造物活用事業【基幹事業】 多目的室(本館 2階西広間)
その他		

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

合計(A+B)	1,183
---------	-------

0163

京都岡崎地区(第2期)(京都府京都市)	面積	34 ha	区域	岡崎最勝寺町及び岡崎成勝寺町(琵琶湖疏水西側の道路以東)、岡崎西天王町及び岡崎入江町並びに聖護院円頓美町(いずれも京都市武道センター及び平安神宮敷地)、岡崎法勝寺町及び南禅寺草川町(京都市動物園敷地)、岡崎円勝寺町(仁王門通以北)
---------------------	----	-------	----	---

